

## 1 研修委員会

### ① 基本方針

学研メディカルサポートの「e-ラーニング」を導入し、半年が経過した。法定研修は健全な介護施設運営の業務であり、幅広い知識・技術を身につけられるように、職員の育成と資質向上を図りより適切なテーマを検討し計画を実施する。

### ② 活動計画

(1)偶数月に計6回開催予定。全部署共通して学べる知識をe-ラーニング配信にてテーマ研修を行う。

(2)各委員会の内容を把握すると共に委員会ファイルの管理・点検を行う。

## 2 感染対策委員会

### ① 基本方針

・昨年12月のコロナ感染状況を踏まえ、感染症の発生予防および蔓延防止の為、各職員への知識・技術の普及を行い、実践可能なマニュアル作成へつなげる。

・感染拡大時の業務継続に向けた備えと見直しを行い、利用者・入居者の安心した生活につなげる。

### ② 活動計画

(1)定期委員会は3か月毎(5月、8月、11月、2月)を予定。感染症等の発生状況に応じて臨時の委員会を開催する。

(2)感染症BCPの研修・訓練及び見直しと共に、e-ラーニングによる感染症・食中毒の予防及び蔓延防止の研修を行う。

(3)感染対策に係る備品の管理を行う。各部署における感染対策実施状況の把握と方法の共有を図る。

## 3 事故防止検討委員会

### ① 基本方針

・定期的に委員会を開催。事故、ヒヤリハットの事例から対応策協議を行う。

・事故防止の為の啓発、対応強化の為の研修会を実施する。

・前年度から導入されているeラーニングを活用し、より全体へ効率的に対応していく。

### ② 活動計画

(1)全部署から集めた事故報告書及びヒヤリハットを集計し公表する。

(2)3ヶ月毎に委員会を開催、事故、ヒヤリハット事例の報告、対応策協議を行う。

(3)年2回、全体研修会の実施。研修方法は原則eラーニングにより、全職員を対象とする。

## 4 防災対策委員会

### ① 基本方針

・昨年度6月に荒尾市と福祉避難所協定締結に伴い、今後もより一層、地域との防災対策連携が期待される。

・BCP(事業継続計画)活用面では、研修や訓練について計画や実践を各委員担当の下で実施する。

### ② 活動計画

(1)年2回(5月夜間想定・11月昼間想定)の防災訓練は、今年度も防災対策委員会の構成員で開催し、職員個々の防災への意識向上をテーマとして、各災害への備えを強化する。福祉避難所間での

(2)福祉避難所間での連携を始め、他施設における防災対策を学ぶことで自施設における避難所開設に役立てる。

## 5 安全衛生委員会

### ① 基本方針

「こころの健康計画」では、「こころの耳」サイトを活用したセルフケア促進を年間テーマに据え、管理者を含めた教育や研修、各ハラスメント対策やプライバシー配慮等について協議し、環境整備を進めて行く。

### ② 活動計画

(1)定例会議を毎月開催し、年間計画の「月別実施事項」や「職場ハトロール」による施設内点検を議題とする。

(2)産業医による腰痛予防検診を7月と翌年1月に実施し、職場における腰痛予防・対策を推進する。

(3)11月末までに全職員を対象とした『第9回ストレスチェック』を実施し、結果分析や相談受付を行う。

(4)「こころの健康計画」に従い、年次目標を協議・設定し、目標達成に向けた取り組みを毎月実施する。

## 6 身体拘束廃止・虐待防止対策委員会

### ① 基本方針

虐待等の発生の防止・早期発見に加え、虐待等が発生した場合はその再発を確実に防止するための対策を検討すると共に、虐待防止に関する措置を適切に実施する。

### ② 活動計画

(1)虐待防止のための指針等の整備 (2)虐待防止を目的とした年1回以上の職員研修の企画・推進

(3)虐待の防止に関する担当者の選定(委員より選任する)

(4)虐待予防、早期発見に向けた取り組み (5)虐待が発生した場合の対応

(6)虐待の原因分析と再発防止策の検討

※虐待防止委員会と身体拘束等適正化検討委員会はそれぞれの要件を満たす内容が検討出来る場合  
一括して設置運営を行う。

## 令和7年度 事業計画

### 部署名

ケアハウス

#### 1 運営基本計画

令和7年3月1日現在、入居者数43名(一般入居者15名、特定入居者生活介護28名)である。昨年度11月以降に計10名(12月～2月に計8名逝去)の退居が相次ぎ、25周年目を迎える今年度も入居者確保に厳しい状況が続くことが予想される。

また、昨年度は7月や12月に感染症拡大の大きな波が押し寄せ、施設運営に多大な影響を与えた。既に新型コロナは2類⇒5類へと分類が変わり、施設外ではマスクの着用者が少なくなってきている中、感染症対策をどのようにしていくべきか、さらには移動の要と言える施設エレベーターの更新工事が5月下旬に控えており、各課題に新たな職員配置で望む決意である。

#### 2 利用者対応

##### I 入居者の状況(数値計画) ※入居待機者 個室49人、夫婦部屋2組(※令和7年3月1日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
目標数	45	47	49	50	50	50	50	50	50	50	50	50	
入居予想数	2	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7

##### 《入居者確保への取り組み》

現在3階独り部屋4室、4階夫婦部屋1室に空室が発生している。今年度より夫婦部屋の入居一時金(96万円)を見直し、入居時にかかる費用負担を軽減することが検討されている。また、独り部屋は原則待機順に案内しているが、優先度や夫婦別々の入居希望等にも対応している。

##### II 利用者処遇と課題

###### ア 入居者の健康状態の把握

- ① 毎日の安否確認時に異常等を確認
- ② 月1回のバイタル測定の実施
- ③ 協力病院等での健康診断の施行

###### イ 食中毒や感染症予防対策

- ① 手洗い、手指消毒と施設内消毒の徹底
- ② 感染流行期の施設内外におけるマスク装着
- ③ 新型コロナ及びインフルエンザ予防接種推進

###### イ 疾病予防と心身機能低下予防対策の実行

- ① 個別処遇計画に基づく支援の実施
- ② ケース検討会議の開催
- ③ 入院準備と家族協力の説明
- ④ 余暇支援活動参加への推進
- ⑤ 各行事参加への推進

###### オ 家族との連絡調整

- ④ 流行期に応じて掲示物等による注意喚起
- ⑤ 感染対策委員会との連携強化

###### ウ 相談業務の充実

- ① 迅速・丁寧・明確な対応
- ② 各担当者同席による相談
- ③ 相談日の毎月開催と適切な回答・対応

###### カ 地域交流の促進

- ① 井手川地区協議会への出席・参加
- ② 福祉避難所指定の検討等、地域防災対策は委員会と連携

##### III 行事 (行事計画参照)

昨年度は毎月開催の談話室お茶会をレクリエーション提供の場へと発展させ、上半期はボウリング大会を下半期は感染症対策で中止となった文化祭を補填する製作物を提供した。今年度は感染症対策を踏襲しながら、厨房からの特別料理の提供を行い、昨年度中止となった「よかもん商店街」の活用や行事の随所にレクリエーション提供の機会を設けて行事運営を行う。

#### 3 研修計画(部署内研修)

4月 感染症予防・対策	6月 緊急時対応	8月 見学案内(居室内設備)
10月 ストレスセルフケア	12月 収入申告	2月 自己点検・自己評価

#### 4 防災・設備関係

##### I 災害時対策…年2回(5月夜間想定・11月昼間想定)防災計画に基づいて防災訓練を実施する。

今年度は、役割分担・避難方法等の周知・実践を防災対策委員会の構成員で実施する。

- II 設備点検
- ① 火災報知器点検(年2回)、電気点検(年1回)、エレベーター点検(毎月1回)
  - ② 災害を想定し、平常時から共用部通路等の点検を安全衛生委員会と連携して実施。
  - ③ 浴槽水残留塩素濃度検査の実施(毎日)、共同浴場の特別清掃の実施(毎週)。
  - ④ エレベーター・防災機器等の点検(毎月)と機器更新手続きの実施。
  - ⑤ 居室、共用部分の一斉点検と補修及び備品在庫管理(年2回)。
  - ⑥ 職員交替発生時には引き継ぎを円滑に行い、設備の営繕対応の維持・継続。

**ケアハウス(含特定)年間行事計画表**

令和7年度

月	行事	特定行事	その他	メンテナンス関係	厨房行事			
4月	花見・行楽弁当(1,500円) ※車内観覧に変更の可能性あり		(買物送迎【月4回】) 理美容日 新聞発行	設備点検、害虫検査 エレベーター点検	花見弁当 嗜好調査			
5月			(買物送迎【月4回】) 理美容日 母の日 防災訓練、ガン検診	設備点検、害虫検査 エレベーター点検・更新工事 排水溝清掃	端午の節句 母の日			
6月	誕生会(112,000円)		(買物送迎【月4回】) 理美容日 父の日	設備点検、害虫検査 エレベーター点検	誕生会(祝膳) 父の日 健康講話			
7月			(買物送迎【月4回】) 理美容日 新聞発行	設備点検、害虫検査 エレベーター点検 フィルター清掃	七夕 土用の丑 ソーメン(8月いっぱい)			
8月			(買物送迎【月4回】) 理美容日	設備点検、害虫検査 エレベーター点検	食材検査			
9月	敬老会・誕生会(120,000円)		(買物送迎【月4回】) 理美容日 (防災講話)	設備点検、害虫検査 エレベーター点検 消火設備点検、水質検査 浄化槽くみ取り	敬老・誕生会(祝膳) 秋祭り 中秋の名月 敬老の日			
10月	【ユーユー秋祭り】(300,000円)		(買物送迎【月4回】) 理美容日 健康診断、(健康講話) 新聞発行	設備点検、害虫検査 エレベーター点検 貯水槽清掃 フィルター清掃	ハロウイン			
11月	運動会(10,000円) 外食ツアーブラジル ※人数多数の場合は2日間に分ける		(買物送迎【月4回】) 理美容日 インフルエンザ予防接種 防災訓練	設備点検、害虫検査 エレベーター点検 一斉電気点検 排水溝清掃				
12月	忘年会・誕生会(116,000円) 冬至ゆず湯(1,500円)		(買物送迎【月4回】) 理美容日 大掃除	設備点検、害虫検査 エレベーター点検 フィルター清掃 貯水槽法定検査	クリスマス 冬至 年越しそば 誕生会(祝膳)			
1月	元日式(4,000円) せんざい会(7,000円) 初詣		(買物送迎【月4回】) 理美容日 新聞発行	設備点検、害虫検査 エレベーター点検	元日(特別食) 七草粥			
2月	豆まき会(4,000円)		(買物送迎【月4回】) 理美容日	設備点検、害虫検査 エレベーター点検 水質検査	節分 バレンタインデー			
3月	誕生会(112,000円)		(買物送迎【月4回】) 理美容日 運営懇談会	設備点検、害虫検査 エレベーター点検 消火設備点検	桃の節句、春分の日 誕生会(祝膳)			
	<b>年間行事費</b>	<b>クラブ等活動費</b>	<b>その他</b>					
誕生会	(460,000円)	レク(30,000円)	誕生者プレゼント 10年入居者プレゼント 父・母の日花	(50*1,100円) 55,000円 (1*5,500円) 5,500円 (50*220円) 11,000円				
秋祭り	(300,000円)	学習療法支援費	健診文書料	(50*1,000円) 50,000円				
その他	(60,500円)	(14,400円)	インフルエンザ 予防接種補助費	(50*1,500円) 75,000円				
特定活動費	(10,000円)							
計 830,500円		計44,400円			計196,500円		<b>総計 1071,400円</b>	

# 令和7年度事業計画

部署名

特定入居者生活介護事業

## 1 運営基本計画

令和7年度は28人でのスタートとなった。前年度後期よりご逝去による契約者減が相次いた。新規入居者や、ケアハウスからの移行を今後踏まえると、本年度中期頃には31名程度には増加するのではないかと予想している。入居者の状態も前年と比較すれば安定しているので、大きく減少することは想定していない。

伴い、看取りの方以外で、如何に入居者数を維持するかが重要である。コロナ感染症を起因としたクラスター発生をどのように防いでいくか、少なからず契約者減の遠因となっていることからも、部署内でBCP対応強化と、延いては、全部署共同で検討、対応実施していくつもりである。

職員数の減少にも懸念点がある。長年貢献してきたベテラン職員が徐々に減っており、派遣労働者や外国人労働者など幅広く受け入れつつ体制維持を図っているが、増加していく委員会業務や各種役割分担、細やかな入居者対応等を行う上で、責任ある仕事を任せることができる人材がいなくなってきた。今後、中核を担っていくであろう職員の育成が急務であり、少しづつ出来る範囲を増やしていくつもりである。

上記の通り、外国人技能実習生を2名を受け入れているが、3人目の実習生については、送り出す国の内政状況が芳しくなく、未だ目途がたっていない。本年度より併せて、特定技能外国人の受入も行っていく予定である。

## 2 特定入居者対応

### ①特定入居者の状況(数値計画)

#### 《介護保険事業》

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
契約者計画	29	29	30	30	31	31	31	31	31	31	31	31	366
契約予定数	1		1		1								3

#### 《特定入居者確保への取り組み》

夫婦部屋の空きがどのように埋まっていくかが特定契約者増に大きく影響していく。夫婦ともに特定で受け入れるのが理想ではあるが、入居者希望を度外視するわけにはいかないので、ケアハウス、居宅ケアマネと良く話し合っていきたい。

部屋数の空きから考えて、契約予定数を3名としているが、ケアハウスからの移行次第で、実数は多くなる見込みである。

### ②特定入居者処遇と課題/健康管理

看取り期に入っている方は現在いらっしゃらないが、100歳を超えてる方も複数名おられる。大きな病気はなくとも、体内炎症がバイタル上のデータにも、血液検査上も反映されないほど、体が弱っている入居者もおられ、救急搬送案件か否かの見極めが非常に困難となっている。対応が遅れ、入居者へ不利益が生じないよう、看護のみでなく、介護全体で対応出来るよう、部署内研修等による技術向上を図りたい。

### ③行事（※ ケアハウス別紙参照）

ケアハウスと協議しながら、感染リスクの少ない企画を順次行なっていく。

自己管理が原則の在宅系と、健康管理義務が生じる施設系で、行事に対する感染症へのリスク管理に温度差が生じることは致し方ないが、彼我の被害規模が明確に異なる為、こればかりは譲歩できない部分もある。行事は周囲の感染状況、他施設での取り組みなども勘案しつつ立案していくが、即日中止判断を特定で行う場合もあり得ることを付記する。

## 3 研修計画

委員会設置義務、研修会開催頻度等、事業所単位で運営基準が異なり、内容の精査、管理が困難となりつつある。

研修委員会主導により、委員会単位で管理を行っていき、実地指導対策としていきたい。

## 4 防災・設備関係

上記同様、BCP研修・訓練など、増加していく一方である。委員会合同で協議しながら、一体的に実施可能な研修や訓練については、なるべく効率的に開催できるようにしていきたい。

# 令和7年度事業計画

## 部署名

### 通所介護事業

#### 1 運営基本計画

昨年度は利用者数増加、スタッフ間の連携を意識して取り組んできた。利用者数の増加は一時的に達成したが（延べ人数500）、安定せず入院や、体調不良者などが出て数字減となった。スタッフ間の連携がうまくいかなかつたことや、情報の共有がなされず転倒事故やクレームになるケースがあったことが反省点で上げられる。

今年度は、昨年度の反省を踏まえ、スタッフ間の連携を取り、情報の共有ができるようコミュニケーションを取ると共に地域に根ざしたデイサービスを目指す。また、内部、外部居宅との情報交換、連携、連絡を密に取り、信頼していただけるよう努める。そして、営業活動は昨年度よりも多く行い、新規利用者獲得のために行動する。早期に延べペ入数600を目指とする。

#### 2 利用者対応

##### ①利用者の状況(数値計画)

###### 《介護給付・予防給付》

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実利用者数	52	52	55	55	55	60	60	62	62	65	65	65	708
延利用者数	500	500	530	530	560	560	590	590	620	620	650	650	6,900

###### 《利用者確保への取り組み》

###### I 地域の方々に対する取り組み

- ・本年度も社会福祉協議会と連携し、中高生の職場体験を計画的に行う。
- ・各地域の公民館長や民生員の方々に対し見学、相談会を企画、実施する。

###### II 居宅介護支援事業所や各市町包括支援センターに対する取り組み

- ・デイの状況を報告し、ニーズにこたえられるよう地域の情報収集に努める
- ・定期的に訪問(営業)し、情報収集に努める。特にデイの特徴をお伝えし活動状況を発信し、魅力をお伝えしていく。

##### ②利用者待遇と課題/健康管理

###### 【送迎】

- ・配車状況を日々更新し、効率よくかつ安全に送迎出来るようスタッフ間の情報共有に努める。

###### 【健康管理】

- ・連絡ノートを活用しご家庭に日々の状況報告を行う。
- ・緊急時の対応を、平常心で対応できるよう定期的に研修を行い意識を高める。
- ・往診時、バイタル一覧表をドクターにお渡しし日々の状況報告を行う。

###### 【食事】

- ・ソフト食等(ニーズに合わせた食事提供)、イベント食の提供を行う。
- ・利用者様の食事摂取量の把握を日々行い、変更時は、その都度対応できる体制をとる。

###### 【介護計画】

- ・介護計画の見直しがスムーズに行えるように、短期・長期目標に対する評価、モニタリングを毎月行う。
- ・計画書に対する実施状況や、評価を居宅や各ご家庭にもお届けし、現状報告、今後の対応方針をお伝えする。

###### ③行事

- ・活動レクリエーションの充実を図り、毎月の誕生会やイベントの企画を立てて実施する。
- ・行事計画の立て方を再度見直し、どのスタッフも同じ取り組みが出来るようにする。

#### 3 研修計画

e-ラーニング講座の受講や、デイ会議で勉強会を行い、介護技術の向上の為  
介護保険のしくみなどの知識を取り入れ現場に反映していく。

#### 4 防災関係

- ・年2回(5月・11月予定)の防災訓練や各防災研修など防災対策委員会と連携し、災害防止に努める。
- ・策定したBCPに基づき感染や災害時等に迅速に対応していく。

#### 5 設備整備計画

建物の破損箇所があるため、優先順位を決め早めに対応する。

## 令和7年度事業計画

部署名

### 訪問介護事業

#### 1. 運営基本計画

特定事業所加算においては、昨年度、特定事業所加算1の加算を取得し、有資格者配置基準と、利用者利用状況配置基準の両面が必要であるが、本年度も継続して実施できる状況である。

地域の高齢者が住みなれた在宅生活を継続でき、個別の生活に添った支援ができるような事業所運営をめざす。訪問介護の需要は高いが、在宅生活全般の支援が多く、重介護に関しては、訪問介護のみでは、生活を継続できない状況からも、専門性の高いサービスで差別化できる提供を目指す必要があり、人員の確保とスキルを磨いていくことをめざす。

#### 2. 利用者対応

##### ①利用者の状況(数値計画)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数 (総合事業)	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300
利用者数 (要介護)	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	726

##### 《利用者確保への取り組み》

利用者の変動は大きな問題であるため、今後も新規に利用者の受け入れは実施していく。事業所の受け入れ状況を考慮することも必要であるが、必要性の高い、重度者への支援や認知症の方・看取りの方への支援を継続する。新規の居宅からの利用者の受け入れも行うことで新しい利用者の受け入れにつなげる。

要支援者については、地域性を考慮し、近隣地域の受け入れは今後も実施していく。総合事業の受け入れについては、現行相當に重点をおき介護の必要性の高い方を優先的に受け入れできるようにする。

##### ②利用者待遇と課題

在宅生活を継続していく上で重要なことは、転倒や感染症など異常の早期発見に努め、重度化しないようにしていくことと思われる。特に独居の方については、入院になりその後の生活への影響が大きくなってしまうことが多い。

ご家族支援がある方については、重度化しても、他のサービス事業者と連携することで、在宅復帰されても生活が継続できる状況をつくるようにしていく。そのためには、ターミナルケア(看取り)についてや介護技術のスキル向上と緊急時への人員配置を取れることが課題となる。

#### 3. 研修計画

総合事業を含めた在宅の利用者様における支援については、他事業所やご家族との連携や緊急時の対応、急変時の対応など対応力や判断力のスキルが必要と考えられる。

研修に関しては、個別の研修計画にもとづき実施する。

- (1)毎月定期研修計画を実施する。事例検討は、個別に課題を挙げて実施する。
- (2)感染症予防、認知症研修、事故防止、身体拘束廃止・虐待防止についての研修は全体研修に加えて、在宅支援にあった研修を実施する。

# 令和7年度事業計画

部署名

居宅支援事業所

## 1 運営基本計画

荒尾市の高齢化率が36%と進み、制度開始当初と比べ高齢者のニーズは多様化・複雑化してきている。そして、高齢者の単身世帯の増加に伴いケアマネジャーに求められる役割も増えている。当事業所でも職員体制が5名から4名へと減少するため、一人当たりの持ち件数が増える。

日々変化の多い高齢者の在宅生活を継続するためには、調整を重ねながらケマネジメントの質の低下に繋がらないように留意し、職員の人員確保や業務効率化を目指す必要性がある。

また今年度も継続し、地域包括支援センターのブランチ業務として、地域住民からの相談や複雑な福祉制度の説明を行い、適切なサービスへと繋ぐことで生活の安定を図る。

その他、荒尾市の取り組みの一環として、認知症になっても安心して暮らせる「あらお」の認知症サポーター養成講座の活発化を図り、相談業務も担って活動を継続していく。

特定事業所の役割を果たし、部署内研修や訓練を計画的に行うと共に、他部署との委員会活動にも積極的に参加し、意見交換や対応力を身につけ地域から頼れる事業所を目指したい。

## 2 利用者対応

### ①利用者の状況

昨年度は主任ケアマネジャーが中心となり、平井・井手川地区協議会や公民館での啓発活動を行ったが、今年度は更に活動の場を増やして、地域の住民や民生委員との繋がりを強化していく。住み慣れた在宅生活が維持出来るように、適切なアドバイスをしながら支援に努める。

#### 《利用者確保への取り組み》

介護保険の利用開始時は、荒尾市の居宅一覧表で家族が直接事業所を探す現状がある。ケアマネジャー不足の問題が根底にあるが、当事業所へ相談依頼があったときは、状況に合わせた受け入れ体制をとるが、受け入れが困難な場合でも他事業所との連携を図り、利用者やご家族が不利益を生じないような取り組みを行う。

### ②利用者待遇と課題

ケアマネジャーの法定外業務においては、やむを得ず行った場合でも積み重ねになってしまうと業務範囲内だと認識されやすい。

高齢者の尊厳を尊重しすぎて、過度な負担を負わないように自費サービスを利用できれば問題はないが、緊急時の場合や経済的な負担を考えると対応せざるを得ない現況がある。利用者や家族は勿論だが、医療従事者や行政にも理解の協力を求め認識を変えることが重要で課題となっている。

## 3 研修計画

- ・在宅ネットあらおや地域包括支援センター主催の研修会への参加
- ・主任介護支援専門員や介護支援専門員対象の研修会への参加
- ・他法人との事例検討会への参加
- ・ケアプラン点検や地域ケア会議への参加
- ・熊本県介護支援専門員協会研修への参加

## 大牟田拠点委員会事業計画

### 研修委員会

内部研修計画を作成し確実に実施できるよう各委員会と連携をとり管理を行う。令和6年度より導入しているeラーニングシステムの受講方法を更に検討し、全職員が必須研修を確実に効率的に受講できる体制を構築する。新入職員向けの採用時研修に関しては、法人の理念や方針を理解した上で就労できるように計画・実施する。外部研修の情報を各部署に確実に伝え、職員が興味のある学びたいと思う研修に参加しスキルアップ、専門性の強化につなげる。

### 安全衛生推進委員会

①安心・安全な職場作り。年1回職員のストレスチェックを実施し、高ストレス者については産業医の面談につなげる。環境面では毎月危険箇所の確認を行い改善する。職員間で言葉を掛け合い、配慮していくことで労働災害の防止に努める。

②腰痛の予防。腰痛発生要因・リスク回避対策などの研修を実施し理解を深める。年1回腰痛に関する問診を行い必要な者は産業医の診察を受ける。

③5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を引き続き推進し、職員の意識向上、業務の効率化を図る。

### 事故発生防止・リスクマネジメント委員会

- ・事故発生後のカンファレンス実施(再発防止策を全員で検討)
- ・個別リスクアセスメントの強化(転倒しやすい利用者にはクッション配置など)3回/年実施予定
- ・緊急時対応の訓練 心肺蘇生や119番通報訓練の実施

### 防災対策委員会

①年1回の防災訓練(火災訓練及び暴風雨・地震等)を実施。技術、知識、対応力を身に着ける。

②緊急時に個々の職員が率先して対応できる能力と施設内の設備、備品の把握をする。

③感染症発生時や災害時の対応としてBCPの訓練を実施することにより、緊急時にも素早く、柔軟に対応できるうような体制を確認する。

④防犯訓練については、警察(生活安全課)との協力のもと、防犯対策や不審者への対応法の向上を図る。

不審者発見時や夜間の不審者対応等、さまざまな場面を想定して対応法を身に着ける。

### 感染症予防対策委員会

①年度2回の内部研修 6月:食中毒 12月:インフルエンザ・コロナウイルス感染症

②インフルエンザ、コロナウイルス感染症、感染性胃腸炎、ノロウイルスについての対応マニュアルの整備を行い、またその際に必要な備品等についても点検、整備を行う。

③感染症BCP訓練の実施

### ターミナルケア委員会

看とりの時期となられた入所者に対し職員の共通理解と連携を図るためのターミナルカンファレンスを適切な時期に行う。本人・家族の意向を皆で把握して安心して過ごすことができるよう、また職員が不安に感じることなく支援ができることを目指す。

### 精神疾患学習・認知症ケア委員会

3ヶ月に1回の委員会を開催し、研修計画の立案やマニュアル等の見直しを行う。内部研修は年2回を企画し精神疾患や認知症のある方への理解や対応方法を深める。令和7年度は統合失調症やうつ病、双極性障害の持病がある方への対応方法について外部講師の講習を開催予定している。

### 身体拘束適正化・虐待防止対策委員会

3ヶ月に1回の委員会を開催し、研修計画の立案やマニュアル等の見直しを行う。令和7年度は、不適切ケアの改善に向けた取り組みと、やむを得ず身体拘束を行う場合の手順や同意書の見直しを検討する。虐待防止の徹底と不適切ケアの改善に向けての内部研修を予定。

## 令和7年度事業計画

### 部署名

吉野園

### 1 運営基本方針

高齢者の最後の砦と言われる養護老人ホームにおいて、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる令和7年度は支援を必要とする高齢者が増加することが予想される。介護が必要でない方には自立した生活の維持と要介護状態にならないよう毎日の生活の充実を図り、介護が必要な方には訪問介護と連携を図ることで安心して暮らせる生活環境と介護サービスの提供を行い、幅広くセーフティーネットとしての役割を果たしていく。

### 2 利用者対応

#### ①利用者の状況(数値計画)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
目標数	89	89	90	89	88	89	88	89	89	90	90	89	1,069
入所予定数	1	0	1	1	1	0	0	1	0	1	0	1	7

#### ②利用者確保への取り組み

近隣市町村の行政をはじめ、各種病院の地域連携室、居宅介護支援事業所等と積極的に連携を図り、措置制度の案内や昨年度から開始した短期入所を含めた相談を受けるようにする。積極的にフォローを行い、法人内、グループ内の事業所にて継続的な支援ができるように働きかける。

#### ③入所者待遇と課題

- ・養護老人ホームへのニーズから金銭面や様々な困難事例のケースは変わらず多く、それらの問題に柔軟に対応しながら安定した生活が出来るように処遇計画を立案し実施していく。
- ・介護ニーズが高まる中、人材確保は必要不可欠である。人材育成の仕組みを見直し、しっかりとステップアップしながら安心して就業できるように定着できる職場環境を目指す。

#### ④行事計画及び地域交流

- ・年間を通して、感染症の流行を念頭に置きつつも、季節の移ろいを感じられる行事を取り入れる。
- ・中々、外出が困難な入所者にも、買い物や外食を楽しんで頂けるよう、業者の協力を得ながら、訪問販売やキッチンカー等に来てもらい、近隣の方とも交流を図れるイベントを開催する。

#### ⑤感染症及び食中毒予防対策

- ・近年季節を問わず、感染症が拡がることがある。日頃より、感染者が発生した際に、迅速な対応が出来るよう備品の保管管理を行い、初期対応で拡大を防ぐ。

### 3 職員研修

必須研修を確実に効率的に受講していくため、eラーニングを利用した内部研修を実施する。

タブレット操作に慣れない高齢職員の研修の受講方法など、荒尾拠点と共有・連携をとり、職員に定着することを目指す。また高齢者虐待の理解をする研修を行い意識低下を防止していく。

ための研修を行う。

### 4 防災計画

毎年2回の防災訓練については、火災・風水害・地震等を日中と夜間を想定し、5月と11月に訓練計画を予定。職員の技術・知識だけではなく、避難・誘導にも注力していく。BCPについても、年2回の訓練を計画し、災害や感染症発生時の緊急時の対応を確認する。防犯訓練を8月に実施、eラーニングでの学習も検討し、防犯の意識向上を図っていく。

## 令和7年度 事業計画

部署名

小規模多機能型ホーム よしの

### 1 運営基本計画

介護保険法を遵守し、利用者や地域住民の方がその人らしく生き、その人らしく生活し、住み慣れた地域で安心して暮らし続ける事ができるよう、地域資源を発掘し活用する。

地域を巻き込んだイベントや学校関連と協力した催しや、地域全体の支援へと繋げられる取り組みを行って行く

### 2 利用者対応

#### ① 利用者の状況(数値計画)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
目標数	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348
登録予定数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12

前年度年間営業結果

訪問件数	87 件	問い合わせ	15 件	見学	8 件	契約	5 件
------	------	-------	------	----	-----	----	-----

#### ② 利用者確保への取組み

例年、小規模の登録人数はほぼ、定員の為、営業時は小規模よしのの現状をお伝えする一方、関連法人の営業も行い、関係維持の取り組みが必須である。

広報誌を作成し、配布目的での訪問やグループ会社施設と共同しての勉強会の開催を行うことで、「受け入れできなくても関係を維持し、将来につなげる営業活動」を取り組んで行く。

令和6年度の小規模多機能事業所の公募はおしくも認可がおりなかったが、市は今年の7月にも再度公募を行う予定であり、法人の意向次第では再度応募する予定である。その際は満場一致が得られるように地域活動の拡充や職員の待遇、育児休業の勧めなど働きやすい職場であることをしっかりとアピールし訴えていく所存である。

#### ③ 利用者待遇と課題／健康管理

物価高騰による食費問題を外注にて対応を検討し、スムーズな食事提供を目指して行く。

世代間交流イベントを増やして行き、高齢者と地域が関わる機会を提供していく。

#### ④ 感染症及び食中毒予防対策

コロナやインフルエンザでの経験を元に緊急時は少人数でも運営できる体制を整えていく。その為の情報共有や研修を重ねていく。

#### ⑤ 行事計画及び地域交流

大牟田高校フード科とコラボしたお菓子訪問販売を企画していく。担当教師と定期的に連絡を取り、次世代の若者たちに当法人の取り組みを知って頂ききっかけ作りをしていく。

### 3 研修

吉野園の計画と同様とする

### 4 防災対策

毎年更新されているハザードマップの確認を行い、緊急時対応に備える。

AEDが期限切れが迫っている為、次年度に8年保証の物を購入予定。BCP訓練計画の修正を行って行く。

### 5 地域交流センター運営

①毎月第3水曜日の地域サロンは継続していく

②台風、水害、土砂災害等地域の方が安心して避難できるよう、自主避難所としての機能を発揮する。

③運営推進会議を活用し、利用者家族など、感染症の影響で参加できなかつた方々にも参加して頂き、よしのの取り組みについて知って頂き。

# 令和7年度事業計画

## 部署名

ヘルパーステーションよしの

### 1. 運営基本計画

2025年団塊の世代の方が後期高齢者になり、今後益々高齢者人口、介護を必要とする方が増加する為、訪問介護に対する需要は高まると思われる。定年退職、離職等により、介護職員の定着率が不安定である事を考慮し、勤務形態の多様化と柔軟性が必要である。

後継者を育成する事も必要であるが、半数以上を占める高齢職員の経験を生かし、無理なく働く職場環境を整備し、職員全員のモチベーションを高め、仕事や研修を通じてチームワークやコミュニケーション力を見につける。

物価が高騰し、運営コストも高くなっている。仕事内容の見直しと効率化を図り、無駄なコストを削減しながらも、利用者満足度を下げない努力が必要である。

### 2. 利用者対応

介護計画書に基づき、利用者が安全で快適な生活が継続できるよう支援する。本人のペースに合わせ、急がせず、安心感のあるケアを行う。

本人の意向を尊重し、身体や精神状況の把握や変化に早めに気づき、生活相談員、ケアマネジャーと連携をとり、安全で清潔な生活環境を維持出来るよう支援していく。

#### 利用者獲得予定数(※年度末: 31人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数 (要介護)	31	32	32	33	33	34	34	35	35	36	36	37	408
獲得予定数		1		1		1		1		1		1	6

### 3. その他

利用者一人ひとり同じように接するのではなく、生活歴や習慣、こだわり等利用者に関する情報収集を行い、個々に応じた満足度を高めるケアを行えるよう努力する。

昨年度から派遣社員の雇用を開始した。希望の勤務状況に応じて職員の勤務態勢を変更する事も増えたが、訪問介護員としての能力を高める為、人材育成に取り組む必要がある。

#### <品質目標実施計画書>

勉強会を開催する事でヘルパーの力量の向上につなげ、利用者満足度を高める。

4月 接遇	8月 プライバシーの保護	12月 介護技術
5月 倫理及び法令遵守	9月 業務継続計画(BCP)	1月 記録の書き方
6月 感染症・食中毒	10月 フレイル・廃用性症候群	2月 事故発生・再発防止
7月 認知症・認知症ケア	11月 緊急時の対応	3月 ハラスメント

※全員参加での勉強会が難しい為、個別にて対応する。 ※個別指導(随時)



## 令和7年度事業計画

部署名

居宅介護支援センターよしの

### 1 運営基本計画

利用者の心身状態や、その置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき、適切な保健医療及び福祉サービスが、多様な事業所から総合的かつ効果的に提供されるよう配慮して行う。

本年度の重点目標を次の通り定める。

#### (1) 利用者の意思や人権を尊重し、利用者の立場に立った支援の実施

ケアマネジャーは対人援助職として、日々の業務の中で利用者の意思決定をサポートする立場であり、高齢者及び障がい者の権利擁護や、人権、虐待防止、認知症等について見識を高めることが求められている。法人研修や事業所内研修、外部研修に参加し、ケアマネジャーの立ち位置や役割を理解し、適切に遂行できるように取り組んでいく。また、昨年度より法人内で力を入れている不適切ケアの改善に向けて、全職員対象に取り組んでいく。

#### (2) 適切なケアマネジメントの実施

現時点では利用者・家族が困っていることの支援だけでなく、本人の持つ潜在能力やストレングスに着目し自分でできることの範囲を増やしていくような支援を目指す。また、利用者・家族の将来を見据え、QOLの低下や介護の必要性等の発生を予防できるような予測的支援を行っていく。

### 2 利用者対応

利用者の予定(※事業対象者を含む)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実績	新規利用者数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	実利用者数	237	238	238	238	240	240	240	242	242	243	245	2885
	(介護給付)	157	158	158	158	159	159	159	160	160	160	160	1909
	※(予防給付)	80	80	80	80	81	81	82	82	82	83	84	976

#### (1) 利用者対応と利用者確保の取り組み

利用者対応については、利用者の尊厳ある生活の実現のため、各種制度や資源等を理解し効果的な利用ができるようケアマネジメント力の向上を目指していく。

利用者確保の取り組みについては、本年度も地域ケア会議の常任メンバーや、ケアマネ連協の研修部会への職員派遣、地域包括支援センターや病院等との協働を通じ、信頼される事業所を目指す。

#### (2) 利用者待遇と課題

高齢者福祉だけでなく、障がい者福祉やヤングケアラー、生活困窮者、難病等、幅広い制度の理解や制度の活用が求められており、積極的に外部研修への参加を行う。

1人当たりの担当件数が増加しているが、安定的な運営と利用者や家族に寄り添う支援を行うために、相談援助以外の業務、特に事務作業について、更に効率化を図る必要がある。

### 3 研修計画

- ・地域研修会(市や地域包括主催研修、CM連協研修、地域防災、認知症模擬訓練、地域ケア会議)への参加
- ・法人内研修(※必須 BCPと虐待)の企画、参加 外部のスキルアップ研修(※介護保険以外の制度を含む)への参加
- ・毎月の事例検討会(年1回他事業所との合同事例検討会、事業所内のスキルアップ研修)の開催